

まえがき

東京都健康安全研究センターは、都民生活の健康と安全を守る健康危機管理対策の科学的・技術的な拠点として、感染症のまん延防止や食品、医薬品、飲用水や生活環境などの安全確保を図るため、監視指導、試験検査、調査研究や新たな健康リスクの評価を行うほか、公衆衛生情報の提供、専門職を対象とした技術研修等を実施しています。この中で、研究部門は試験検査や各分野の専門的な研究を行い、広域監視部門は監視指導業務に加えて先行的な調査に取り組んでいます。また、研究部門と広域監視部門はそれぞれの業務において密に連携することで、平時から健康危機への対策に取り組んでいます。

令和元年末から始まった新型コロナウイルス感染症への対応では、当センターは早期から検査体制を構築し、新たな変異株に対する迅速スクリーニング法の開発を行ってきました。また都内20か所の下水の新型コロナウイルスの測定も行ってきました。昨年5月に感染症法上の位置付けが5類へ移行しましたが未だ完全終息には至っておりません。そのため、感染状況についてのモニタリングを現在も継続中です。

本年、当センターは前身の都立衛生研究所の時期を含めて75年目を迎えます。この間、東京都内で発生した様々な健康危機に対応してきましたが、これら対応の中での経験を踏まえ、有事に備えた平時からの各種対策が、我々地方衛生研究所には求められています。次の四半世紀に向けて、今後も、都内を中心に発生する健康危機管理に関連した様々な課題に的確に応えられる検査・研究の体制を確保するとともに関係機関との連携を進め、必要かつ十分な情報の収集・解析と迅速な情報発信に努めてまいります。

本事業概要は、令和5年度の当センターの事業実績や研究成果等をまとめたものであり、関係者の皆様にご活用いただければ幸いです。

令和6年9月

東京都健康安全研究センター
所長 吉村 和久